哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語教育学実習	日本語コースの運営と改善	2	島崎　薫	6	後期 水曜日 3講時 後期 水曜日 4講時	
日本語教育学実習	海外インターンシップ	2	小河原　義朗	集中(6)	集中講義	
哲学思想概論	古代ギリシア哲学史	2	嶺岸　佑亮	3	前期 金曜日 3講時	
哲学思想概論	古代・中世におけるプラトニズムの歴史的展開	2	嶺岸　佑亮	4	後期 金曜日 3講時	
哲学思想概論	人間と社会	2	城戸　淳	3	前期 月曜日 4講時	
現代哲学概論	近現代哲学の諸問題	2	直江　清隆	3	前期 水曜日 2講時	
現代哲学概論	応用倫理学の基礎	2	直江　清隆	4	後期 水曜日 2講時	
現代哲学概論	心の哲学入門	2	原　塑	3	前期 水曜日 4講時	
現代哲学概論	言語哲学入門	2	原　塑	4	後期 水曜日 4講時	
哲学思想基礎講読	シラーの哲学的著作を読む	2	嶺岸　佑亮	3	前期 木曜日 3講時	
哲学思想基礎講読	マイスター・エックハルトのドイツ語著作・説教を読む	2	嶺岸　佑亮	4	後期 木曜日 3講時	
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン（1）	2	原　塑	3	前期 水曜日 3講時	
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(2)	2	直江　清隆.城戸　淳	4	後期 水曜日 3講時	
哲学思想各論	日本哲学の現状と展望—「私と汝」関係の諸問題を参考に	2	上原　麻有子	集中(6)	後期集中 その他 連講	
生命環境倫理学各論	研究の倫理とコミュニケーション	2	原　塑	6	後期 金曜日 5講時	
哲学思想演習	アーレント『精神の生』講読	2	森　一郎	5	前期 金曜日 3講時	
哲学思想演習	現象学研究	2	直江　清隆	5	前期 火曜日 5講時	
哲学思想演習	現象学研究	2	直江　清隆	6	後期 火曜日 5講時	
哲学思想演習	科学・技術の哲学	2	直江　清隆	5	前期 火曜日 3講時	
哲学思想演習	科学・技術の哲学	2	直江　清隆	6	後期 火曜日 3講時	
哲学思想演習	哲学のメソッド	2	原　塑	5	前期 金曜日 4講時	

哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
哲学思想演習	記号論理学	2	原　塑	6	後期 金曜日 4講時	
哲学思想演習	アリストテレス『動物の運動について』を読む	2	文　景楠	5	前期 月曜日 4講時	
哲学思想演習	アリストテレス『動物の運動について』を読む	2	文　景楠	6	後期 金曜日 3講時	
哲学思想演習	コースガード『目的の国をつくる』講読	2	城戸　淳	5	前期 木曜日 2講時	
哲学思想演習	ロックと18世紀の人格同一性論	2	城戸　淳	6	後期 木曜日 2講時	
哲学思想演習	カント『純粋理性批判』研究	2	城戸　淳	5	前期 水曜日 5講時	
哲学思想演習	カント『純粋理性批判』研究	2	城戸　淳	6	後期 水曜日 5講時	
生命環境倫理学演習	情報倫理学の諸問題	2	原　塑	5	前期 金曜日 5講時	

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 ３講時

セメスター：3 **単位数**：2

担当教員：嶺岸　佑亮

コード：LB35303, **科目ナンバリング**：LHM-PHI205J, **使用言語**：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：古代ギリシア哲学史
２．Course Title（授業題目）：History of Ancient Greek Philosophy
３．授業の目的と概要：　この講義では、真理の探究という哲学の営みの端緒をなす古代ギリシア哲学の
歴史について考察します。古代ギリシアでは、哲学は初めから一つの学問として
確立されていたのではなく、むしろホメロス叙事詩に示されるような神話的思考との
対決の中で次第に形成されてきました。あらゆる物事を貫く原理や、
認識のはたらきと真理の関係、さらには人間的生の本来的なあり方など、
今日に至るまで問い続けられている様々な問題の出発点が古代ギリシアのうちにあります。
ヘラクレイトス、パルメニデス、プラトン、ならびにアリストテレス
という代表的な哲学者の思想を取り上げることで、その大まかな見取り図を獲得することを目指します。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：　We are going to　discuss the history of the Ancient Greek philosophy, which makes
the beginning of the investigation of the truth. In this course, we are going to see
the thoughts of Heraklit, Parmenide, Platon and Aristotle in particular,
５．学修の到達目標：・様々な思想家たちによる普遍的な次元での議論を、各自が主体的に受け止めて理解するとともに、
　問題となっている事柄を自分自身の言葉で表現し、追思考することが出来るようになること
・古代ギリシアという歴史的な条件やものの見方を理解するだけにとどまらず、理解したものを
　自分自身に密接にかかわるような問題として受け止められるようになること
・自分で考え、理解したものを、他の人たちにも理解できるような仕方で表現する能力を身に着けること
６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students are expected to understand the basic thoughts of the Greek Philosophers. And it is
expected to be able to explain the basic points of them.
７．授業の内容・方法と進度予定：
　第１回：イントロダクション（講義概要）
　第２回：神話的思考から哲学的思考へ――哲学詩というもの――
　第３回：イオニア学派：ヘラクレイトス――対立と調和――
　第４回：エレア学派：パルメニデスーー存在と無をめぐってーー
　第５回：プラトン（１）『パイドン』――魂の不死をめぐって――
　第６回：プラトン（２）『パイドロス』――美をめぐって――
　第７回：プラトン（３）『パイドロス』――真の意味での語ることとは――
　第８回：プラトン（４）『国家』――イデアを観ること――
　第９回：プラトン（５）『テアイテトス』――知識と思いなし――
　第 10 回：プラトン（６）『ソフィステス』――存在しないものをめぐって――
　第 11 回：アリストテレス（１）――運動の原理としての自然――
　第 12 回：アリストテレス（２）――魂とその諸能力――
　第 13 回：アリストテレス（３）――可能態と現実態――
　第 14 回：アリストテレス（４）――人間的善と幸福をめぐって――
　第 15 回：全体のまとめ
８．成績評価方法：
　各回のコメントペーパーと期末レポートを総合的に評価します。
９．教科書および参考書：
　教科書は特に指定しません。毎回クラスルームに資料をアップする予定です。
また参考書についてはその都度紹介します。
１０．授業時間外学習：毎回配布される資料を事前に読んでおくとともに、ノートを読み返すこと。
さらに、その都度紹介する参考文献で興味のある個所を読むことが望ましいです。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
　　※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:”○”Indicatesthe practicalbusiness
　《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 ３講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：嶺岸　佑亮

コード：LB45303, **科目ナンバリング：**LHM-PHI205J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：古代・中世におけるプラトニズムの歴史的展開

２．Course Title（授業題目）：Platonism in the Ancient Greek and the Middle Age

３．授業の目的と概要：　プラトンの哲学の影響は古代ギリシアのみならず、むしろ古代ローマを経由して
中世に至るまでの間にきわめて多大なものがありました。そのことは哲学という営みの内部だけにとどまらず、
ルネサンス期に至ってボッティチェッリやミケランジェロの絵画や彫刻にも示されている通りです。
そこで本講義では、プロティノス、アウグスティヌス、エックハルト、クザーヌスなどの代表的な思索家を取り上げることで、
プラトニズムの歴史的展開を追跡するとともに、その思索の射程を改めて見定めることを試みます。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：　The historical influence of Plato's Philosophy is so great, that we can see
its consequences even in the Medieval Philosophy. We are going to see the thoughts of
Plotin, Augustin, Eckhart and Cusa in particular.

５．学修の到達目標：・様々な思想家たちによる普遍的な次元での議論を、各自が主体的に受け止めて理解するとともに、
　問題となっている事柄を自分自身の言葉で表現し、追思考することが出来るようになること
・古代ギリシアという歴史的な条件やものの見方を理解するだけにとどまらず、理解したものを
　自分自身に密接にかかわるような問題として受け止められるようになること
・自分で考え、理解したものを、他の人たちにも理解できるような仕方で表現する能力を身に着けること

６．Learning Goals(学修の到達目標)：　Students are expected to understand the basic thoughts of the Greek Philosophers. And it is
expected to be able to explain the basic points of them.

７．授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：イントロダクション（講義概要）
第 2 回：プロティノス（１）――認識を通じて認識を超え出ていくこと――
第 3 回：プロティノス（２）――一なるものへと高まること――
第 4 回：アウグスティヌス（１）――三位一体としての神と似像――
第 5 回：アウグスティヌス（２）――ことばとなった神――
第 6 回：アウグスティヌス（３）――恩寵と自由意志――
第 7 回：間奏――中世アリストテレス主義における知性をめぐって――
第 8 回：エックハルト（１）――ことばによる創造――
第 9 回：エックハルト（２）――認識と意志をめぐって――
第 10 回：エックハルト（３）――魂の根底と突破――
第 11 回：間奏――イタリア・ルネサンスにおけるプラトニズム――
第 12 回：クザーヌス（１）――無限なものをめぐって――
第 13 回：クザーヌス（２）――神の創造の模倣としての人間的技術――
第 14 回：クザーヌス（３）――神を観ることと神によって観られること――
第 15 回：全体のまとめ

８．成績評価方法：

各回のコメントペーパーと期末レポートを総合的に評価します。

９．教科書および参考書：

教科書は特に指定しません。毎回クラスルームに資料をアップする予定です。
また参考書についてはその都度紹介します。

１０．授業時間外学習：毎回配布される資料を事前に読んでおくとともに、ノートを読み返すこと。
さらに、その都度紹介する参考文献で興味のある個所を読むことが望ましいです。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 ４講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：城戸　淳

コード：LB31402, **科目ナンバリング：**LHM-PHI205J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：人間と社会

２．Course Title（授業題目）：Human Beings and Society

３．授業の目的と概要：　人間と社会をめぐる、古代の原型的な哲学を紹介したのち、近代の哲学的思考の諸類型について検討する。

人間は社会をつくって生きる。その社会的秩序の生成においては、人間の個人性と共同性との緊張があり、それが古来より哲学的にくりかえし問いなおされてきた。それは、複数的に生きる人間による哲学的な自己理解の試みであったともいえよう。とりわけ近代は、宗教改革、啓蒙主義、産業革命、資本主義などによって、人間と社会との関わり方が大きく揺らいだ時代であって、社会契約論などの理論的再構築が試みられた。その思想史は現代に生きるわれわれにとっても不可欠のものである。

講義では、思想史の通覧よりも、各回のトピックに即した事象的な把握につとめる。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This lecture will examine various ideas in Western philosophy concerning human beings and society.

Human beings are social animals. When humans create a social order, there is a tension between individuality and community, which has been examined philosophically since ancient times. In the modern era, the way humans relate to society has changed dramatically with the Reformation, the Enlightenment, the Industrial Revolution, and capitalism. This brought about various developments in modern philosophy, which will be the topics of this lecture.

５．学修の到達目標：人間と社会をめぐる哲学史を把握する。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will study the history of philosophy on human beings and society.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1　導入――人間と社会
2　ソフィストの正義論
3　ソクラテスとプラトンの理想国
4　アリストテレスの政治学
5　ホッブズの人間論
6　ホッブズの政治哲学
7　イギリス道徳哲学の展開
8　ヒュームの情念論
9　ヒューム「原始契約について」
10　ルソーの言語起源論
11　ルソーの社会契約論
12　カントの普遍的歴史
13　カントの社会契約論
14　ヘーゲルにおける人倫の学
15　リベラリズムとその臨界

８．成績評価方法：

毎回のコメントと期末レポートによる。

９．教科書および参考書：

引用資料（プリント）を配付する。

参考文献は随時、指示する。

１０．授業時間外学習：講義で紹介した文献を読むこと。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 ２講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：直江　清隆

コード：LB33202, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：近現代哲学の諸問題
２．Course Title（授業題目）：Issues in Contemporary Philosophy
３．授業の目的と概要：この授業では、近現代の大陸哲学の基本概念を学ぶ。その際、歴史順に概観するのではなく、「生命と生」「身体」「他者理解」などの重要な問題に沿って検討を進める。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course deals with the basic concepts of modern and contemporary continental philosophy, by picking up some important issues such as "life," "body/embodiment" "understanding others," and so on.
５．学修の到達目標：現代哲学の意義について理解し、自分なりの考えを持てるようになる。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：This course provides students with opportunities to understand the importance of philosophical thinking. It is also designed to help students gain the perspective needed to describe it in their own words.
７．授業の内容・方法と進度予定：
現代哲学の話題について学びつつ、自ら哲学するための手がかりを見つける。哲学者としてはレーヴィット、ヘルダー、ヘーゲル、ディルタイ、ハイデガー、ガダマー、フッサールなどが取り上げられる予定です。

1.哲学はなにではないのか
2. 懐疑と相対主義(1)
3. 懐疑と相対主義(2)
4. 身体という謎(1)
5 身体という謎(2)
6.世界と環境世界
7. 他者という謎 (1)
8. 他者という謎 (2)
9. 他者という謎 (3)
10.合理主義とロマン
11.生活世界と学問 (1)
12 .生活世界と学問 (2)
13.異なるもの理解 (1)
14. 異なるもの理解 (2)
12.12.12.異なるもの理解 (1) (1) (1) (1)
13. 異なるもの理解 (2)
13. 言語、身体と社会(1)
14. 言語、身体と社会(2)
15. まとめ
【必要に応じて、一部内容・順番を差し替えることがあります.】

コメントメーパーにより、議論の要点と自分の考えを簡単にまとめ、 最終的には、レポートが書けるだけの能力を身につけられることを目指します。また、今年の授業では毎回ワークシート を用意し、短いテキスト、そのテキストが書かれた背景、とのテキストで問われていること、テキスト の主張、その主張に対する批判、現代の問題との繋がりでどう考えるかなどについて説明し、自ら考え、議論するようにします。
８．成績評価方法：
平常点 30%　レポートないし試験（問題は事前公開）70%
９．教科書および参考書：
参考書：新田義弘『哲学の歴史』（講談社現代新書）　授業で扱った事柄が同一位置にあるかを概観するのに便利。参考書は随時授業中に紹介します。
１０．授業時間外学習：授業時に参考資料を配付し、参考文献を紹介するので、それらを再読し、上記教科書で位置づけを理解し、自分なりに捉え直してみる作業を繰り返して下さい。
また、その内容に基づいて予習を指示することもあります。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 ２講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：直江　清隆

コード：LB43202, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：応用倫理学の基礎
２．Course Title（授業題目）：Issues in Bio- and Environmental Ethics
３．授業の目的と概要：医療をはじめとする科学技術と人間の関わりをどう捉えるかは今日ますます重要な問いとなっている。この授業では応用倫理学の基本的な概念と原理を学ぶとともに、生命環境倫理学の主要問題を紹介する。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：How to understand the relationship between science, technology including medicine and human beings has become an increasingly important issue today. This course deals with the basic concepts and principles of applied ethics. It also explains some important issues of bio- and environmental ethics.
５．学修の到達目標：応用倫理学の基本的な事項を理解し、生命環境倫理学の個別の問題に対して自分なりに考えることができる
６．Learning Goals(学修の到達目標)：After taking this course, participants will be able to :
- Explain the essential concepts of applied ethics
- Discuss the indidivual problems of bio- and environmental ethics.

７．授業の内容・方法と進度予定：
規範倫理学の基礎とともに、生命環境倫理学におけるその具体的あり方、現在の諸問題について順次検討する。
基本的に講義とディスカッションで構成するが、必要に応じてビデオの使用、論文紹介を行う。

１，はじめに：応用倫理学への招待
２，功利主義
３，義務論
４，徳倫理学
５，正義論
６，共感とケアの倫理
７，生命倫理⑴　生殖医療
８，生命倫理⑵　再生医療
９，生命倫理⑶　終末期医療
10，環境倫理⑴　世代間倫理
11，環境倫理⑵　環境正義
12，環境倫理⑶　生態系中心主義
13，AIの倫理⑴　リスクと予防原則
14，AIの倫理⑵
15，AIの倫理⑶
【最新のテーマを取り入れるため、一部内容を変更することがあります。】

８．成績評価方法：
レポート 80%　(授業中に実施する小レポートを含む) 授業への参加 20%

９．教科書および参考書：
参考書：
赤林 朗他編『入門・医療倫理』Ⅰ～Ⅲ、勁草書房。
吉永明弘、寺本剛 編『環境倫理学』昭和堂。
クーケルバーク『AIの倫理学』(直江他訳) 丸善出版。

１０．授業時間外学習：上記テキストをもとに基本事項を解説するので必ず振りかえってみていただきたい。生命倫理学や環境倫理学、AIの倫理学の文献はたくさんあるので、進んで取り組んで欲しい。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:″○″Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 ４講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：原　塑

コード：LB33401, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：心の哲学入門
２．Course Title（授業題目）：Introduction to the Philosophy of Mind
３．授業の目的と概要：心の哲学は 20 世紀半ば以降、英米圏を中心に大きく研究が進展してきた分野である。この授業では、心の哲学で展開された議論を紹介しながら、心の様々な性質－心の因果性、現象的意識、心の志向性、心の合理性―を順に分析していく。講義形式で授業を行うが、学期中数回、演習問題ととりくんでもらう。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In the course, various properties of the mind will be discussed such as causality of the mind, phenomenal consciousness, intentionality, and rationality, while introducing the arguments developed in the philosophy of mind.
５．学修の到達目標：1. 概念や論証を分析する技術を習得する。
2. 心や意識についての現代的議論を理解する。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：1. To acquire the skills to analyze concepts and arguments.
2. To understand modern discussions about mind and consciousness.
７．授業の内容・方法と進度予定：
この科目は、対面とオンライン（オンデマンド型）を併用して実施する。
学期を通じた授業の構成は以下の通りである。

1. はじめに
2. 心の因果性１
3. 心の因果性２
4. 心の因果性３
5. 心と意識１
6. 心と意識２
7. 心と意識３
8. 心の志向性１
9. 心の志向性２
10. 心の志向性３
11. 心の合理性１
12. 心の合理性２
13. 心の合理性３
14. 心に関する諸問題
15. まとめ

８．成績評価方法：
課題の提出（60％）、テスト（40％）
９．教科書および参考書：
金杉武司『心の哲学入門』勁草書房、2007 年
１０．授業時間外学習：授業用スライドを、Google Classroom にアップロードするので、内容を確認するように。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:″○″Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 ４講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：原　塑

コード：LB43401,　**科目ナンバリング：**LHM-PHI206J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：言語哲学入門
２．Course Title（授業題目）：Philosophy of Language
３．授業の目的と概要：20 世紀以降、英米圏を中心に展開している分析哲学は、哲学的問題への取り組みが言語を用いてなされていることに着目し、言語の働きを分析することで哲学的問題に答えようとする。このため、分析哲学では、言語の基礎的現象、例えば、言語表現が何かを指示したり、意味したりすることができるのはなぜかを明らかにすることが重要な課題となった。この講義では、言語の指示や意味、あるいは発話の理解といったテーマに関して、分析哲学で行なわれてきた議論を概観する。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This lecture reviews the discussions that have been conducted in analytical philosophy on topics such as reference and meaning.
５．学修の到達目標：1. 概念や論証を分析する技術を習得する。
2. 指示や意味についての哲学的議論を理解する。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：1. To acquire the skills to analyze concepts and arguments.
2. To understand philosophical arguments about reference and meaning.
７．授業の内容・方法と進度予定：
この科目は、対面とオンライン（オンデマンド型）を併用して実施する。
以下の項目を順番に講義する。

１．はじめに
２．指示と意味
３．記述の理論１
４．記述の理論２
５．固有名１
６．固有名２
７．様々な真理概念１
８．様々な真理概念２
９．可能世界１
１０．可能世界２
１１．名指しと必然性１
１２．名指しと必然性２
１３．検証主義
１４．真理条件説
１５．まとめ

８．成績評価方法：
課題の提出（60％）、テスト（40％）
９．教科書および参考書：
服部裕幸『言語哲学入門』2003 年、勁草書房
Papineau, D. 2012. Philosophical Devices: Proofs, Probabilities, Possibilities, and Sets. Oxford University Press.
１０．授業時間外学習：授業教材は、Google Cassroom の授業用サイトにアップロードされます。授業内容を理解するために参考書を見てみてください。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:″○″Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 木曜日 ３講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：嶺岸　佑亮

コード：LB34302, **科目ナンバリング：**LHM-PHI214J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：シラーの哲学的著作を読む
２．Course Title（授業題目）：Reading Schiller's Philosophical Writings
３．授業の目的と概要：この授業では、詩人としても名高いフリードリヒ・シラー（1759～1805）の哲学的著作のうち、美や文化に関する問題や人間形成論に関するものをドイツ語原文で精読する。シラーの思想は、同時代の多くの哲学者や芸術家にきわめて多大な影響を与えている。またそれと同時に、シラーはカントの批判哲学との徹底的な格闘を通じて自らの思想を次第に形成したことが注目される。自由を主張してやまないシラーの哲学的思索を読み解くことにより、近代ドイツ哲学特有の方法や視座について理解を深めるとともに、自分自身で哲学するための基礎体力を養うことを目指す。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, we are going to read some philosophical writings of Friedrich Schiller (1759～1805) in its original German text. By reading the text, we are going to tackle with the problem of the beauty and the cultureon the one hand, and that of the cultivation of human being. Schiller's thought had great influeneces on the contemporary philosophers and artists. It is typical of Schiller, that he developed his philosophical thought by struggling with Kant's ciritical philosophy. By reading and discussing this text, we will attain the foundation to understand the typical topics and manner of the modern philosophy.
５．学修の到達目標：・ドイツ語で書かれたテクストを自分で読むことが出来るようになる。
・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え抜く態度を身に着ける。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：・To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.
・To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over
７．授業の内容・方法と進度予定：
第 1 回：イントロダクション（授業内容・方法の説明、今後の進め方の確認）
第 2 回：文化をめぐる箇所の精読（１）
第 3 回：文化をめぐる箇所の精読（２）
第 4 回：文化をめぐる箇所の精読（３）
第 5 回：文化をめぐる箇所の精読（４）
第 6 回：美をめぐる箇所の精読（１）
第 7 回：美をめぐる箇所の精読（２）
第 8 回：美をめぐる箇所の精読（３）
第 9 回：美をめぐる箇所の精読（４）
第 10 回：美をめぐる箇所の精読（５）
第 11 回；人間形成をめぐる箇所の精読（１）
第 12 回：人間形成をめぐる箇所の精読（２）
第 13 回：人間形成をめぐる箇所の精読（３）
第 14 回：人間形成をめぐる箇所の精読（４）
第 15 回：全体のまとめ
８．成績評価方法：
出席および平常点（毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加）
９．教科書および参考書：
テクストはコピーを配布します。以下を使用予定です。
Schllers Werke, Nationalausgabe, hrsg. v. Julius Petersen, Weimar 1942ff.
１０．授業時間外学習：各回の予習として、 1 頁程度の予習が必要です。
［Students are required to prepare 1 page for each class ］
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 ３講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：嶺岸　佑亮

コード：LB44302, **科目ナンバリング：**LHM-PHI214J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：マイスター・エックハルトのドイツ語著作・説教を読む

２．Course Title（授業題目）：Reading Meister Eckhart's German Writings

３．授業の目的と概要：　本授業では、中世後期に主としてドイツで活躍したマイスター・エックハルト（1260 頃～1327）が中高ドイツ語で書いた著作や説教のいくつかを、現代ドイツ語訳で精読する。

エックハルトの思索は、神秘主義的な深い思弁に立脚すると同時に、聴衆や読み手に向けて強烈に語り掛ける力強さを備えている。またエックハルトが語る言葉の背景には、プラトン以来のいわゆるプラトニズムの系譜やスコラ哲学の影響も顕著であり、ドイツ語による哲学的思索の出発点としてきわめて興味深い。それと同時に、エックハルトの思索は 19 世紀以降現在に至るまで、ヘーゲルやニーチェやハイデッガーをはじめとする哲学者だけでなく、心理学や社会学などの方面にも多大な影響を与え続けている。

エックハルトのドイツ語の文章を読み解くことで、人間的生の根底に肉薄しようとするその徹底的な思索を読み解くとともに、自ら主体的に哲学するための基礎体力を養うことを目指す。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, we are going to read Meister Eckhart's some German writings in modern German translation. His thougts belongs to the tradition of mysticism, which forms the beginning of the German Mysticism. Eckhart's words are full of energy, so that the reader must have so strong impressions from these words. By reading and discussing this text, we will attain the foundation to understand the typical topics and manner of the German Philosophy.

５．学修の到達目標：・ドイツ語で書かれたテクストを自分で読むことが出来るようになる。

・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え抜く態度を身に着ける。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：・To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.

・To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over

７．授業の内容・方法と進度予定：

授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：イントロダクション（授業内容・方法の説明、今後の進め方の確認）

第 2 回：『教導講話』を読むその 1：神に対する人間のふさわしい態度とは (1)

第 3 回：『教導講話』を読むその 2：神に対する人間のふさわしい態度とは (2)

第 4 回：『教導講話』を読むその 3：何ももたないことこそ真の豊かさである (1)

第 5 回：『教導講話』を読むその 4：何ももたないことこそ真の豊かさである (2)

第 6 回：『教導講話』を読むその 5：存在の根底をめぐって (1)

第 7 回：『教導講話』を読むその 6：存在の根底をめぐって (2)

第 8 回：ドイツ語説教を読むその 1：存在と行為をめぐって (1)

第 9 回：ドイツ語説教を読むその 2：存在と行為をめぐって (2)

第 10 回：ドイツ語説教を読むその 3：認識と意志の関係 (1)

第 11 回：ドイツ語説教を読むその 4：認識と意志の関係 (2)

第 12 回：ドイツ語説教を読むその 5：神の像としての人間 (1)

第 13 回：ドイツ語説教を読むその 6：神の像としての人間 (2)

第 14 回：ドイツ語説教を読むその 7：何ものにもとらわれないこと

第 15 回：全体のまとめ

８．成績評価方法：

出席および平常点（毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加）

９．教科書および参考書：

テクストはコピーを配布します。以下を使用予定です。

Meister Eckhart, Die dutschen und lateinischen Werke, hrsg. im Auftrag der Deutschen Forschungsgemeinschaft, Abt. I: Die deutschen Werke, hrsg. v. J. Quint, Stuttgart 1936ff.

１０．授業時間外学習：各回の予習として、 1 頁程度の予習が必要です。

[Students are required to prepare 1 page for each class]

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：原　塑

コード：LB33304, **科目ナンバリング：**LHM-PHI214J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1．授業題目：哲学研究のレッスン (1)
2．Course Title (授業題目)：Western Philosophical Thought (Introductory Reading)
3．授業の目的と概要：　この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。
最初の 10 回程度は、教員が選んだテキストをもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。倫理学の村山先生と哲学の原が、ほぼ半分ずつ担当します。また、最後の5回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します。
4．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall read a couple of chapters from introductory texts of philosophy and ethics. Previously appointed participants will make a brief report on an assigned passage and then all of us will discuss it. In the last four sessions previously appointed participants will give a presentation on the topic of their choosing and then all of us will discuss it.
5．学修の到達目標：(1) 哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。
(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。
6．Learning Goals(学修の到達目標)：Become able to understand and discuss texts of ethics.
Become able to find and discuss topics in ethics.
7．授業の内容・方法と進度予定：
授業の実施形態： 対面授業のみ

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

1.ガイダンス
2.倫理学の入門的テキストの講読(1)
3.倫理学の入門的テキストの講読(2)
4.倫理学の入門的テキストの講読(3)
5.倫理学の入門的テキストの講読(4)
6.倫理学の入門的テキストの講読(5)
7.哲学の入門的テキストの講読(1)
8.哲学の入門的テキストの講読(2)
9.哲学の入門的テキストの講読(3)
10.哲学の入門的テキストの講読(4)
11.哲学の入門的テキストの講読(5)
12.発表と討論(1)
13.発表と討論(2)
14.発表と討論(3)
15.発表と討論(4)

8．成績評価方法：
報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点 (60%) と、最後の発表ないしレポート (40%) で評価します。
9．教科書および参考書：
必要なものは配布します。
参考書は演習内で指示します。
10．授業時間外学習：事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員および TA に相談し、レジュメについてアドバイスを受けるようにして下さい。
11．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12．その他：
具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。
哲学専修の2年生はこの水 3 の授業を必ず履修するようにしてください。他の専修の方は事前または初回時に教員とご相談ください。

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 ３講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：直江　清隆.城戸　淳

コード：LB43305, **科目ナンバリング：**LHM-PHI214J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：哲学研究のレッスン(2)

２．Course Title（授業題目）：Philosophy for Beginners 2

３．授業の目的と概要：　前期の「哲学研究のレッスン (1)」の続きです。哲学専修の２年生は必ず前期・後期ともに履修して下さい。(倫理学専修の方は「倫理学研究のレッスン」の欄をご覧下さい。)

目的は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それをふまえて討論したり発表したりする力を身につけることです。

最初の５～10 は英語のテクストを用います。折にふれて教員の解説を聞きながら、担当箇所のレジュメを作成し授業時に発表したり、テキストをふまえた討論をしたりします。最後の４回ほどは、担当者が自分で決めたテーマについて発表を行い、みなでそれをめぐって議論します（前期・後期を通じて１人１回発表して頂きますので、後期は、前期に発表しなかった方に発表して頂くことになります)。今学期発表をしない人には、自分で決めたテーマについての学期末レポートを提出して頂きます。

４.Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall read a couple of chapters from Simon Blackburn's THINK in the first ten sessions except the very first. Previously appointed participants will make a brief report on an assigned passage and then all of us will discuss it. In the last four sessions previously appointed participants will give a presentation on the topic of thief choosing and then all of us will discuss it.

５．学修の到達目標：(1) 哲学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。
(2) 哲学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Become able to understand and discuss philosophical texts written in English. Become able to find and discuss philosophical topics.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1.　　ガイダンス
２～６． Simon Blackburn の THINK: A COMPELLING INTRODUCTION TO PHILOSOPHY の 'Free will' の章を読み、議論する。
７～１４． 各人がテーマを担当する本を見つけ発表し、討論する。
１５．まとめ

（参加者の人数により、内容を一部変更することがある）

８．成績評価方法：

英語テクストについてのレジュメ報告や討論 (60%)。最後４回ほどの発表、ないし学期末レポート (40%)。

９．教科書および参考書：

授業時に説明する。

１０．授業時間外学習：英語テクストを読んでいるときには、事前に、次回に取り上げる箇所を読み理解に努めてください。レジュメ報告を担当する際、事前に教員および TA に相談し、アドバイスを受けて下さい。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

哲学・倫理学以外の専修の方、哲学・倫理学専修でも、３年生以上の方が受講を希望される場合は、事前に、あるいは授業の初回に、教員として相談ください。

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6) **単位数：**2

担当教員：上原　麻有子

コード：LB98825,　**科目ナンバリング：**LHM-PHI305J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：日本哲学の現状と展望―「私と汝」関係の諸問題を参考に

２．Course Title（授業題目）：Current States and Perspectives in Japanese Philosophy―With Reference to the Problems of "I and Thou" Relation

３．授業の目的と概要：日本哲学という分野の研究は、近年の外国人研究者による加速的な展開や日本での刊行物の増加を鑑みたところ、新たな発展段階に入ったと言えそうだ。講義ではまず、日本哲学がどのような課題に取り組んできたのかを分析する。その上で、一つの例として「私と汝」関係の系譜に焦点を当て、自覚、対話、身体、表現、存在、非対等などの問題を引き出だし、論じる。この系譜の起点を西田幾多郎の論文「私と汝」(1932 年) に置き、当時、西田の周辺にいた京都学派の哲学者、田辺元、九鬼周造、和辻哲郎、三木清などの自他関係論と比較する。さらに、今の複雑化した社会が抱える「私と汝」関係の困難や新たな問題に視線を向け、哲学理論の有効性や意義について検討する。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The research of the field of Japanese philosophy seems to have entered a new stage in recent years, with its rapid development promoted by the scholars of Japanese philosophy outside Japan and the increase in the publications in Japan. This lecture will focus on the analysis of the kinds of problems Japanese philosophy has treated, in particular we will focus on a genealogy of the notion of the "I and Thou" relation. We will then bring out and examine the philosophical issues such as self-awakening (自覚), dialogue, body, expression, being, and non-equality. We will set a starting point of this genealogy at Nishida Kitarō's article entitled "I and Thou"(1932), and we will compare the theories of the "self and other" with other similar theories that have been advanced respectively by Tanabe Hajime, Kuki Shūzō, Watsuji Tetsurō or Miki Kiyoshi who surrounded Nishida in that period. Moreover, this study will attempt to examine the effectiveness and the significance of the philosophical theory of "self and other" by examining the difficulties and new problems for the relationship between "I and Thou" in the context of today's complex society.

５．学修の到達目標：西田の論文「私と汝」の意義を評価し、この自他論を批判的に乗り越えようとした田辺の立場、ほか九鬼、和辻、三木の哲学を「私と汝」論と関係させて読み直すことで、日本哲学における一つの系譜を浮き彫りにする。この作業を通して、それぞれの哲学者の根本的思想を比較的に理解する。さらに、このような自他関係に関する哲学理論を現実の社会の実践問題に照らし、授業中の議論を通して自ら考える力を養う。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：The students will be able to trace a genealogy of the "I and Thou" in Japanese philosophy through examining the significance of Nishida's notion of "I and Thou", as well as reinterpreting Tanabe's standpoint (of trying to overcome critically the "self and

７．授業の内容・方法と進度予定：

以下のような課題を通して考察を深めてゆく。

1 ガイダンス―趣旨説明、「日本哲学」研究の現状
2 日本哲学研究における課題
3 西田幾多郎の「私と汝」の概要―自覚という問題
4「私と汝」における対話―上田閑照の解釈
5 田辺元の「私と汝」批判―「社会存在の論理」との比較
6 田辺元の「私と汝」批判―「実存協同」との比較
7 現代社会における「私とあなた」の関係性の困難
8 ジェシカ・ベンジャミンの性差ある自他関係、「私と汝」の対等性
9 九鬼周造の「いき」な関係
10 和辻哲郎の「間柄」
11 三木清の人間関係
12 「私と汝」の身体表現
13 廣松渉―「表情」
14 日本哲学における「私と汝」の系譜
15 総論と総合議論

８．成績評価方法：

平常点 50%とレポート試験（集中講義終了後）50%による。

９．教科書および参考書：

特定の教科書は使用しないが、講義前に講義要旨・資料を配付する。参考図書は以下の通り。

上田閑照『私とは何か』岩波新書、2006 年（2000 年）
九鬼周造『「いき」の構造』藤田正勝全注解、講談社学術文庫、2005 年（2003 年）
田辺元『田辺元哲学選Ｉ 種の論理』岩波文庫、2010 年
田辺元『田辺元哲学選Ｉ 種の論理』岩波文庫、2010 年
西田幾多郎『近代日本思想選　西田幾多郎』小林敏明編、ちくま学芸文庫、2020 年

廣松渉『表情』弘文堂、1991年
１０．授業時間外学習：集中講義（３～４コマ×４日間の予定）であるため、日々、翌日使用する参考書の予習と講義資料の復習を行ってください。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:″○″Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

科目名：生命環境倫理学各論／ Bio-Environmental Ethics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 ５講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：原　塑

コード：LB65501, **科目ナンバリング：**LHM-PHI306J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：研究の倫理とコミュニケーション

２．Course Title（授業題目）：Research Ethics and Science Communication

３．授業の目的と概要：この授業では、研究倫理と科学コミュニケーションという二つの内容を扱います。本来、研究倫理は研究を倫理的観点から規制する学問、科学コミュニケーションは研究の内容を社会に伝え、科学への社会からの支持を調達する活動であって、これらは対立的関係に立ちます。しかし、現在では、研究に対する社会からの要望や懸念を研究者と市民が共有し、それを研究者が考慮しつつ研究活動を行うことが研究の倫理的信頼性と研究に対する社会からの支持を高めると考えられるようになり、融合が進んでいます。そこで、この授業げは、研究倫理の観点を考慮しつつ、科学コミュニケーションについて講義します。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, we will cover two topics: research ethics and science communication. Originally, research ethics was the study of regulating research from an ethical perspective, and science communication was the activity of communicating the content of research to society and procuring public support for science. However, nowadays, they are increasingly merging, with researchers and citizens sharing society's demands and concerns about research, and researchers taking these into account in their research activities, which is believed to enhance the ethical credibility of research and society's support for research. Therefore, this class will lecture on science communication, taking into account the perspective of research ethics.

５．学修の到達目標：１．科学コミュニケケーションの基礎理論とその問題点を理解する。
２．東日本大震災、コロナ禍で行われた科学コミュニケーションの特徴と問題点を理解する。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：1. to understand the basic theory of science communication and its problems
2. To understand the characteristics and problems of science communication in the Great East Japan Earthquake and the Corona Disaster.

７．授業の内容・方法と進度予定：

この授業は講義形式で、以下の内容を扱います。
対面とオンラインを併用します。

1. イントロダクション
2～7. 科学コミュニケケーションの理論
8・9. 東日本大震災と科学コミュニケケーション
10・11. あいちトリエンナーレ 2019 と科学コミュニケケーション
12・13. コロナ禍と科学コミュニケケーション
14. 科学コミュニケーションの新しい課題
15. まとめ

８．成績評価方法：

出席し、課題を提出する（60%）、レポート（40%）

９．教科書および参考書：

なし

１０．授業時間外学習：授業中に配布する資料をよく読んでおいてください。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 ３講時

セメスター：5 **単位数**：2

担当教員：森　一郎

コード：LB55306, **科目ナンバリング**：LHM-PHI313J, **使用言語**：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：アーレント『精神の生』講読
２．Course Title（授業題目）：Reading Arendt: The Life of the Mind
３．授業の目的と概要：この授業では、ハンナ・アーレントの主著の一つである『精神の生』を精読し、現代における哲学の可能性について考えていく。

＊教室での対面授業を実施予定。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read one of Hannah Arendt's major works, The Life of the Mind, and think about the possibilities of contemporary philosophy.

*I hope to meet all the class members at the real classroom.
５．学修の到達目標：１．哲学の古典を精読する醍醐味を味わう
２．じっくりものを考えるということの重要性を理解する。
３．哲学の歴史に学ぶことの重要性を理解する。
４．今日的問題を根本的に掘り下げることの重要性を理解する。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：1. To enjoy the pleasure of reading the philosophical classical texts.
2. To learn the significance of thinking radically.
3. To learn the significance of the history of philosophy.
4. To understand the significance of fundamental reflexions on modern
７．授業の内容・方法と進度予定：
授業の実施形態：対面授業

第１回：ガイダンス
第２回：『精神の生』第 1 章第 8 節（その 1）第 1〜6 段落
第３回：『精神の生』第 1 章第 8 節（その 2）第 7〜12 段落
第４回：『精神の生』第 1 章第 8 節（その 3）第 13〜17 段落
第５回：『精神の生』第 2 章第 9 節（その 1）第 1〜5 段落
第６回：『精神の生』第 2 章第 9 節（その 2）第 6〜9 段落
第７回：『精神の生』第 2 章第 9 節（その 3）第 10〜14 段落
第８回：中間考察
第９回：『精神の生』第 2 章第 10 節（その 1）第 1〜6 段落
第 10 回：『精神の生』第 2 章第 10 節（その 2）第 7〜13 段落
第 11 回：『精神の生』第 2 章第 11 節（その 3）第 14〜18 段落
第 12 回：『精神の生』第 2 章第 11 節（その 1）第 1〜5 段落
第 13 回：『精神の生』第 2 章第 11 節（その 2）第 6〜9 段落
第 14 回：アーレントの共通感覚論
第 15 回：まとめ
８．成績評価方法：
1 平常点（出席・質疑応答への参加等）50％、学期末レポート 50％で、総合的に評価する。
９．教科書および参考書：
教科書はとくに定めず、授業用に用意したプリントを配布し、それに沿って議論する。
参考書：
・Hannah Arendt, The Life of the Mind. One / Thinking, Harcourt Brace & Company, 1978
・佐藤和夫訳『精神の生活（上)』岩波書店、1994 年
・ハンナ・アーレント『活動的生』森一郎訳、みすず書房、2015 年
・ハンナ・アーレント『革命論』森一郎訳、みすず書房、2022 年
・エリザベス・ヤング＝ブルーエル『ハンナ・アーレント』
１０．授業時間外学習：配布プリント、参考書、関連文献を熟読すること。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：
使用言語：日本語／Language: Japanese

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

セメスター：5 **単位数**：2

担当教員：直江　清隆

コード：LB52505, **科目ナンバリング**：LHM-PHI313J, **使用言語**：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：現象学研究
２．Course Title（授業題目）：Seminar on Phenomenology
３．授業の目的と概要：フッサールの『イデーンⅡ』(構成についての現象学的研究) を読み、身体、自我などの議論を理解する.
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read Husserl's "IdeasⅡ' (Studies in the Phenomenology of Constitution) and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of embodiment and ego.
５．学修の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。
・現象学の議論における知覚、身体、自我の役割について論じることができる
６．Learning Goals(学修の到達目標)：After taking this course, participants will be able to :
- Explain the essential concepts of phenomenology
- Discuss the role of perception, embodiment, ego in phenomenological arguments
７．授業の内容・方法と進度予定：
『イデーン』(純粋現象学と現象学的哲学のための諸構想) は20世紀の最も重要な哲学書の一つに数えられる。『イデーンⅠ』で現象学的還元やノエシス・ノエマ的構造についてプログラム的な考察を行った後、本書『イデーンⅡ』では、「構成についての現象学的研究」として、「自然と精神」に関わる幾つかの重要な問題について具体的な分析が行われる。その哲学・思想への影響は広範囲に及ぶ。
この授業では現象学について概括的な紹介をしたのち、本書の議論をていねいに読み解きながら、知覚、身体、自我といった問題についてのフッサールの議論を検討する。原文はドイツ語であるが、すぐれた英訳や、訳註と解説がついた日本語訳も出ている。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めるが、同時にこの概念の問題性について議論する。

１、イントロダクション　現象学とは
２,『イデーン』における現象学的還元
３,『イデーン』における志向性の問題
４,「構成についての現象学的研究」読解（１）
５,「構成についての現象学的研究」読解（２）
６,「構成についての現象学的研究」読解（３）
７,「構成についての現象学的研究」読解（４）
８、 中間まとめ　間主観的な現実としての自然の構成について
９、「構成についての現象学的研究」読解（６）
10、「構成についての現象学的研究」読解（７）
11、「構成についての現象学的研究」読解（８）
12、「構成についての現象学的研究」読解（９）
13、「構成についての現象学的研究」読解（１０）
14、「構成についての現象学的研究」読解（11）
15、　まとめ
８．成績評価方法：
レポート50%
平常点50%(討論などを含む)
９．教科書および参考書：
E. Husserl. "Ideen", Zweiter Band(Husserliana IV), (Ideas", Second Book)(『イデーンⅡ－１』立松弘孝ほか訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。
参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。
欧文の参考書（例えば、Nenon, Thomas, Issues in Husserl's Ideas Ii (Contributions to Phenomenology) (Contributi
１０．授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テクストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみること。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 ５講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：直江　清隆

コード：LB62505, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：現象学研究
２．Course Title (授業題目)：Seminar on Phenomenology
３．授業の目的と概要：フッサールの『イデーンⅡ』(構成についての現象学的研究）を読み、現象学的な知覚、身体、自我などの議論を理解する.
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read Husserl's "IdeasⅡ' (Studies in the Phenomenology of Constitution) and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of embodiment and ego.
５．学修の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。
・現象学の議論における知覚、身体、自我の役割について論じることができる
６．Learning Goals(学修の到達目標)：After taking this course, participants will be able to :
- Explain the essential concepts of phenomenology
- Discuss the role of perception, embodiment, ego in phenomenological arguments
７．授業の内容・方法と進度予定：
前期に続き、『イデーンⅡ』を読んで議論する。

１、前期の授業の復習：『イデーンⅡ』における有機的世界の構成
２,「構成についての現象学的研究」読解（１）
３,「構成についての現象学的研究」読解（２）
４,「構成についての現象学的研究」読解（３）
５,「構成についての現象学的研究」読解（４）
６, 中間まとめ１　身体について
７,「構成についての現象学的研究」読解（５）
８、「構成についての現象学的研究」読解（６）
９、「構成についての現象学的研究」読解（７）
10、「構成についての現象学的研究」読解（８）
11、中間まとめ１　純粋自我について
12、「構成についての現象学的研究」読解（９）
13、「構成についての現象学的研究」読解（10）
14、「構成についての現象学的研究」読解（11)
15、　まとめ
８．成績評価方法：
レポート 50%
平常点 50%(討論などを含む)
９．教科書および参考書：
E. Husserl. "Ideen", Zweiter Band(Husserliana IV), (Ideas", Second Book)(『イデーンⅡ－１』立松弘孝ほか訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。
参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。
欧文の参考書（例えば、Nenon, Thomas, Issues in Husserl's Ideas Ii (Contributions to Phenomenology) (Contributi
１０．授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テクストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみること。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 ３講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：直江　清隆

コード：LB52305, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：科学・技術の哲学

２．Course Title（授業題目）：Seminar on philosophy of science and philosophy

３．授業の目的と概要：現在の技術哲学の基礎文献を読み、基礎的な問題構成を理解する。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read the basic literature on the philosophy of technology

５．学修の到達目標：・現代の技術哲学の基本概念について説明をすることができる。
・現代の技術哲学に孕む様々な問題とその解決方について論じることができる

６．Learning Goals(学修の到達目標)：・Explain the essential concepts of the philosophy of technology
・Discuss the fundamental issues in the philosophy of technology

７．授業の内容・方法と進度予定：
マーク・クケルバーク『技術哲学講義』、関連する１～２の論文を取りあげ、議論する。

1, オリエンテーション
2, 歴史と背景(1)
3, 歴史と背景(2)
4, 現象学と解釈学(1)
5, 現象学と解釈学(2)
6, ポスト現象学、物質的解釈学、媒介理論(1)
7, ポスト現象学、物質的解釈学、媒介理論(2)
8, 批判理論とフェミニズム(1)
9, 批判理論とフェミニズム(2)
10, プラグマティズム、分析的アプローチ、文科横断的哲学（１）
11, プラグマティズム、分析的アプローチ、文科横断的哲学解（２）
12, 情報技術から哲学、そして情報倫理へ（１）
13, 情報技術から哲学、そして情報倫理へ（２）
14, ロボット工学と人工知能
15, まとめ

８．成績評価方法：
レポート)（報告を含む) 80% 授業への参加 (討論) 20%

９．教科書および参考書：
教科書　マーク・クケルバーク『技術哲学講義』直江清隆, 久木田水生監訳、丸善出版, 2023(Marck Coeckelbergh, Introduction to philosophy of technology, 2020)、ほかの使用文献（日、英）は適宜配布する。

１０．授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 ３講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：直江　清隆

コード：LB62304, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：科学・技術の哲学
２．Course Title（授業題目）：Seminar on philosophy of science
３．授業の目的と概要：現在の科学哲学の基礎文献を読み、基礎的な問題構成を理解する。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read the basic literature on contemporary philosophy of science and help students to acquire an understanding of the fundamental principles of philosophy of science.
５．学修の到達目標：・現代の科学哲学の基本概念について説明をすることができる。
・現代の科学哲学に孕む様々な問題とその解決方について論じることができる
６．Learning Goals(学修の到達目標)：・Explain the essential concepts of contemporary philosophy of science
・Discuss the fundamental issues in contemporary philosophy of science
７．授業の内容・方法と進度予定：
サミール・オカーシャ『科学哲学　第二版』(Samir Okasha, Philosophy of Science : a very short introduction, 2nd ed.,2014) を手がかりに、関連する１～２の論文を取りあげ、議論する。(後半で取りあげる論文には、Stathis Psillos and Martin Curd(ewd.), The Routledge companion to philosophy of science , Routledge , 2010. - (Routledge companions to philosophy)あたりも候補になる。) 適宜技術哲学の論文も取りあげる。

1, オリエンテーション
2, 科学的推論
3, 科学における説明
4, 実在論と反実在論
5, 科学の変化と科学革命
6, 個別科学の哲学
7, 科学批判
8, 論文読解（１）
9, 論文読解（１）
10, 論文読解（３）
11, 論文読解（４）
12, 論文読解（５）
13, 論文読解（６）
14, 論文読解（７）
15, まとめ

８．成績評価方法：
レポート）(報告を含む) 80% 授業への参加 (討論) 20%
９．教科書および参考書：
教科書　サミール・オカーシャ『科学哲学　第二版』廣瀬覚、直江清隆訳、2023 (Samir Okasha, Philosophy of Science : a very short introduction, 2nd ed.,2014)、ほかの使用文献（日、英）は適宜配布する。
１０．授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 ４講時

セメスター：5 **単位数**：2

担当教員：原　塑

コード：LB55405, **科目ナンバリング**：LHM-PHI313J, **使用言語**：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：哲学のメソッド
２．Course Title (授業題目)：How to Write a Philosophy Paper
３．授業の目的と概要：哲学で論文を執筆するのは難しい。論文を執筆するためには、テーマを決め、そのテーマに関連する文献を集め、それらを読解し、議論情況を確認した後で、いままでの議論には見られない著者独自の視点をもつ議論を組み立てなければならない。だが、特にどのようなテーマで、またどのような仕方で議論を組み立てれば、著者独自で、〈哲学〉らしい研究になるのだろうか。
この授業では、哲学研究の方法、特に文献の読解・解釈の方法を演習を通じて学ぶ。また、同時並行して、受講者各人に、卒論・修論を執筆するとして、どのようなテーマについて、どのように論じたいかを考えてもらい、その内容を学期の後半の授業中、発表してもらい、受講者全員で討論する。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, you will learn how to write a philosophical paper through exercises.
５．学修の到達目標：１．哲学論文の分析方法に習熟する。
２．研究テーマを見つけ、テーマに関連する文献を調査し、著者独自の議論を組み立てることができるようになる。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：1. You will be familiar with philosophical methods
2. You will be able to find research themes, examine the literature related to the themes, and make up your own discussions.
７．授業の内容・方法と進度予定：
この科目は、対面、オンライン同期授業として実施する。
学期全体の授業構成は以下を予定している。

１．イントロダクション
２～６．哲学研究方法論演習
７～９．文献のまとめ方演習
１０～１５．卒論・修論構想発表

８．成績評価方法：
授業中の課題に取り組む（60%）、研究発表（40%）
９．教科書および参考書：
佐々木健一『論文ゼミナール』2014 年、東京大学出版会
戸田山和久『新版 論文教室―レポートから卒論まで』2012 年、NHK 出版会
１０．授業時間外学習：論文執筆を目的として授業時に課される課題と取り組む。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:″○″Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：
授業の具体的な進め方については初回授業時に説明する。
この授業は基本的には哲学専修・倫理学専修３年次の学生向けであるが、哲学・倫理学を専門とする博士前期課程大学院生も出席してもよい。ただ、この授業を受講することで、毎週月曜５限に実施している演習を代替することはできない。また、他の分野を専門とする大学院生で、この授業を受講することを希望する者は授業担当教員に相談すること。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 ４講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：原　塑

コード：LB65407, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：記号論理学
２．Course Title（授業題目）：Formal Logic
３．授業の目的と概要：一階述語論理の言語に習熟するとともに、タブローによる妥当性のチェック方法を学び、そのスキルを使用して日本語による推論の妥当性を検討できるようにすることがこの授業の目的である。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to learn the language of first-order logic, learn how to check the validity of a tableau, and use that skill to examine the validity of inference in Japanese.
５．学修の到達目標：1. 記号論理学の背景にある基本的な考え方、概念を理解する。
2. 記号の操作法を身につける。
3. 日本語の推論の妥当性を検討する能力を身につける。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：1. Understand the basic concepts of formal logic.
2. Learn how to operate symbols.
3. To acquire the ability to examine the validity of inference in Japanese.
７．授業の内容・方法と進度予定：
この科目は主に対面授業として実施する。
学期を通じた授業の構成として以下を予定している。

1. イントロダクション
2. 記号について
3. 命題について
4. 命題の意味
5. 推論の妥当性
6. タブロー１
7. タブロー２
8. 多重量化
9. 自然言語から型式言語への翻訳
10. 数の数え方
11. 日本語による推論の妥当性１
12. 日本語による推論の妥当性２
13. 日本語による推論の妥当性３
14. タブローの健全性と完全性
15. まとめ

８．成績評価方法：
出席し、課題を提出する（60%）、テスト（40%）
９．教科書および参考書：
加藤浩、土屋俊『記号論理学』放送大学教育振興会、2014 年
丹治信春『論理学入門』筑摩書房、2014 年
１０．授業時間外学習：自宅で、テキストを予習し、課題と取り組むこと
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 ４講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：文　景楠

コード：LB51405, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：アリストテレス『動物の運動について』を読む

２．Course Title（授業題目）：Reading Aristotle's De motu animalium

３．授業の目的と概要：アリストテレス生物学における重要文献の一つである『動物の運動について』を、近年出版された新たな校訂本と注釈を参照しながら古典ギリシア語で読む。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course serves as an introduction to Aristotle's De motu animalium, one of the most important works in his biology. Students will be required to read the original Greek text with the recent commentaries.

５．学修の到達目標：アリストテレスの生物学と関連する様々なトピックに親しみ、古代ギリシア哲学をテーマとする論文を執筆するための作法を学ぶ。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn the basic topics in Aristotle's biology and become familiar with the research in Ancient Greek Philosophy.

７．授業の内容・方法と進度予定：

本授業は演習を中心に進める。内容及び予定は以下のとおりであるが、進捗状況によって若干変更する場合もある。

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　アリストテレス生物学の紹介
第 3 回　Rapp の哲学的序論を読む
第 4 回　Primavesi の文献学的序論を読む
第 5 回　第 1 章原典講読
第 6 回　Rapp によるコメンタリーを読む
第 7 回　第 1 章討論
第 8 回　第 2・3 章原典講読
第 9 回　Coope によるコメンタリーを読む
第 10 回　第 2・3 章討論
第 11 回　第 4・5 章原典講読
第 12 回　Morison によるコメンタリーを読む
第 13 回　第 4・5 章討論
第 14 回　第 6 章原典講読
第 15 回　Corcilius によるコメンタリーの読む／レポート構想発表

８．成績評価方法：

毎回の訳読や討論を含む出席 60%、最終レポート 40%

９．教科書および参考書：

教員が授業中に配布する。

References are handed out at every class.

１０．授業時間外学習：担当者はレジュメを準備し、積極的に議論に参加することが要求される。

Students should prepare a handout in turn and engage in classroom discussion actively.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

古典ギリシア語の基本的な知識をもっていることを前提する。

Students are assumed to be familiar with the essentials of ancient Greek grammar.

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 ３講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：文　景楠

コード：LB65305, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：アリストテレス『動物の運動について』を読む
２．Course Title（授業題目）：Reading Aristotle's De motu animalium
３．授業の目的と概要：アリストテレス生物学における重要文献の一つである『動物の運動について』を、近年出版された新たな校訂本と注釈を参照しながら古典ギリシア語で読む。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course serves as an introduction to Aristotle's De motu animalium, one of the most important works in his biology. Students will be required to read the original Greek text with the recent commentaries.
５．学修の到達目標：アリストテレスの生物学と関連する様々なトピックに親しみ、古代ギリシア哲学をテーマとする論文を執筆するための作法を学ぶ。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn the basic topics in Aristotle's biology and become familiar with the research in Ancient Greek Philosophy.
７．授業の内容・方法と進度予定：
本授業は演習を中心に進める。内容及び予定は以下のとおりであるが、進捗状況によって若干変更する場合もある。

第 1 回　前期の振り返り
第 2 回　第 7 章前半部原典講読
第 3 回　Cooper によるコメンタリーを読む
第 4 回　第 7 章前半部討論
第 5 回　第 7 章後半部・第 8 章原典講読
第 6 回　Hankinson によるコメンタリーを読む
第 7 回　第 7 章後半部・第 8 章討論
第 8 回　第 9・10 章原典講読
第 9 回　Gregoric によるコメンタリーを読む
第 10 回　第 9・10 章討論
第 11 回　第 11 章原典講読
第 12 回　Morel によるコメンタリーを読む
第 13 回　第 11 章討論
第 14 回　Laks による総括を読む
第 15 回　振り返りとレポートの構想発表

８．成績評価方法：
毎回の訳読や討論を含む出席 60%、最終レポート 40%
９．教科書および参考書：
教員が授業中に配布する。
References are handed out at every class.
１０．授業時間外学習：担当者はレジュメを準備し、積極的に議論に参加することが要求される。
Students should prepare a handout in turn and engage in classroom discussion actively.
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：
古典ギリシア語の基本的な知識をもっていることを前提する。
Students are assumed to be familiar with the essentials of ancient Greek grammar.

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 ２講時

セメスター：5 **単位数**：2

担当教員：城戸　淳

コード：LB54211,　**科目ナンバリング**：LHM-PHI313J,　**使用言語**：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：コースガード『目的の国をつくる』講読

２．Course Title（授業題目）：Korsgaard, Creating the Kingdom of Ends

３．授業の目的と概要：　コースガード『目的の国をつくる』を読む（英語）。コースガードは今日の代表的なカント倫理学の研究者であるが、歴史的に忠実なカント解釈にとどまらず、カント的な発想の現代的な可能性をさまざまに追及している点で際立っている（それは本書の目次にもうかがわれる）。この演習では、本書からいくつかの章を選んで、担当者によるレジュメの形式で発表・討議し、各章ごとに受講生からのコメントを踏まえて考察するものとする。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read "Creating the Kingdom of Ends" by Christine M. Korsgaard in English. She is one of the leading scholars of Kantian ethics and reveals various contemporary possibilities of Kantian ideas. In this seminar, we select several chapters of the book to examine.

５．学修の到達目標：英語の哲学論文を読んで、理解し、考察する。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：To read, understand, and discuss philosophical articles in English.

７．授業の内容・方法と進度予定：

Part I. Kant's Moral Philosophy:

1. An introduction to the ethical, political, and religious thought of Kant;
2. Kant's analysis of obligation: the argument of Groundwork I;
3. Kant's formula of universal law;
4. Kant's formula of humanity;
5. The right to lie: Kant on dealing with evil;
6. Morality as freedom;
7. Creating the kingdom of ends: reciprocity and responsibility in personal relations;

Part II. Comparative Essays:

8. Aristotle and Kant on the source of value;
9. Two distinctions in goodness;
10. The reasons we can share: an attack on the distinction between agent-relative and agent-neutral values;
11. Skepticism about practical reason;
12. Two arguments against lying;
13. Personal identity and the unity of agency: a Kantian response to Parfit.

（上記は Creating the Kingdom of Ends の目次。これらの諸論文から３～４本程度を選んで講読する予定。
受講生の関心に応じて決めるが、論文４、論文７、論文 10、論文 13 などが候補になるだろうか。）

８．成績評価方法：

発表、討議、期末レポートによる。

９．教科書および参考書：

教科書　Christine M. Korsgaard, Creating the Kingdom of Ends, Cambridge University Press, 1996.

参考書　スースガード『義務とアイデンティティの倫理学――規範性の源泉』寺田・後藤・三谷・竹山訳、岩波書店、2005 年。

大庭健編・古田徹也監訳『現代倫理学基本論文集Ⅱ 規範倫理学篇①』勁草書房、2021 年（論文３の邦訳を収録）。

１０．授業時間外学習：テクストを予習・復習すること。カントやコースガードのその他の著作を読むこと。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 ２講時

セメスター：6 **単位数**：2

担当教員：城戸　淳

コード：LB64209, **科目ナンバリング**：LHM-PHI313J, **使用言語**：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：ロックと 18 世紀の人格同一性論

２．Course Title（授業題目）：Personality Identity: Locke and 18th Century Philosophy

３．授業の目的と概要：ロックが『人間知性論』第二版（1694）に追加した人格同一性論は、その後さまざまな異論や過激化をのみこみつつ拡大し、大きな哲学的トピックへと成長した。その余波は現代哲学にまで及ぶ。この演習では、おもに邦訳に基づいて、ロックのテクストをあらためて読みなおしたうえで、それ以後の 18 世紀までの主な人格同一性論を検討する。時間が許せば現代哲学におけるさまざまな議論も検討したい。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theory of personal identity, discussed in a chapter added by John Locke to the second edition of An Essay Concerning Human Understanding (1694), grew into a major philosophical topic, whose aftermath has reached contemporary philosophy. In this seminar, we will read Locke's text and then examine the major 18th century theories of personal identity since then.

５．学修の到達目標：ロックの人格同一性論とその後の展開を理解する。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand Locke's theory of personal identity and its subsequent developments.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1-5 ロック『人間知性論』(1694) の「同一性と差異性について」(II. 27)
6-8 ライプニッツ『人間知性新論』の「同一性と差異性とは何であるか」(II. 27)
9-10 ヒューム『人間本性論』(1739) の「人格の同一性について」(1.4.6)
11-13 カント『純粋理性批判』(1781) の「第三誤謬推理」
14-15 リード『人間の知的能力に関する試論』(1785) の「記憶について」(III)

８．成績評価方法：

発表、コメント、期末レポートによる。

９．教科書および参考書：

ロック『人間知性論（二)』大槻春彦訳、岩波文庫、1974 年。
ライプニッツ『人間知性新論』米山優訳、みすず書房、1987 年。
ヒューム『人間本性論 第１巻 知性について』木曾好能訳、法政大学出版局、1995 年。
カント『純粋理性批判（中)』原佑訳、平凡社ライブラリー、2005 年。
リード『人間の知的能力に関する試論（上)』戸田綱文訳、岩波文庫、2022 年。
参考書　パーフィット『理由と人格―非人格性の倫理へ』森村進訳、勁草書房、1998 年。

１０．授業時間外学習：テクストをよく読むこと。そのテクストを含む哲学書や、その他の文献をみずから読むこと。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 ５講時

セメスター：5 **単位数**：2

担当教員：城戸　淳

コード：LB53503, **科目ナンバリング**：LHM-PHI313J, **使用言語**：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：カント『純粋理性批判』研究
２．Course Title（授業題目）：Kant's Critique of Pure Reason
３．授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』（1781/87年）をドイツ語原文で読む。今年度の前期は、「すべての対象一般をフェノメナとヌーメナに区別する根拠について」章にとりくむ。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に応えてもらう。また、進行に応じて、関連するコメンタリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read Kant's Critique of Pure Reason (1781/87) in the original German. In the first semester of this year, we will work on the chapter of "Of the Ground of the Division of all Objects into Phenomena and Noumena". In addition to reading, students will be asked to answer interpretive questions and to report on commentaries or articles on the Phenomena and Noumena.
５．学修の到達目標：哲学の原典テクストを読みとく忍耐と技法を身につける。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：To develop the abilities to read and analyse philosophical texts.
７．授業の内容・方法と進度予定：
（対面授業のみ）

1 – 15 「すべての対象一般をフェノメナとヌーメナに区別する根拠について」講読
８．成績評価方法：
訳読、報告、討議、期末レポートによる。
９．教科書および参考書：
Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.
（他の箇所の参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。）
１０．授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 ５講時

セメスター：6 **単位数**：2

担当教員：城戸　淳

コード：LB63503, **科目ナンバリング**：LHM-PHI313J, **使用言語**：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：カント『純粋理性批判』研究

２．Course Title（授業題目）：Kant's Critique of Pure Reason

３．授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』（1781/87 年）をドイツ語原文で読む。今年度の後期は、「反省概念の二義性について」章にとりくむ。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に応えてもらう。また、進行に応じて、関連するコメンタリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read Kant's Critique of Pure Reason (1781/87) in the original German. In the second semester of this year, we will work on the chapter of "the Amphiboly of the Conceptions of Reflection". In addition to reading, students will be asked to answer interpretive questions and to report on commentaries or articles on the Amphiboly.

５．学修の到達目標：哲学の原典テクストを読みとく忍耐と技法を身につける。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：To develop the abilities to read and analyse philosophical texts.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1 - 15 「反省概念の二義性について」講読

８．成績評価方法：

訳読、報告、討議、期末レポートによる。

９．教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.
（他の箇所の参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。）

１０．授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：生命環境倫理学演習／ Bio-Environmental Ethics (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 ５講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：原　塑

コード：LB55501,　**科目ナンバリング：**LHM-PHI314J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：情報倫理学の諸問題

２．Course Title（授業題目）：Issues in Information Ethics

３．授業の目的と概要：この授業では身体美の規範に関わる情報がもたらす倫理的問題を考察します。身体美の規範は、化粧品や脱毛、ダイエットなど美容広告だけではなく、あらゆる文化的表現を通じて広く社会に拡散され、個々人の身体イメージとアイデンティティに多大な影響を与えています。この問題を考えるために、イギリスの応用倫理学者、Heather Widdows の著作、Perfect Me--Beauty as an Ethical Ideal (Princeton University Press: 2018) を読み、議論します。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class examines the ethical issues raised by information related to beauty norms. Norms of physical beauty are widely diffused in society through not only beauty advertisements, but, in practice, all cultural expressions, and have a profound impact on individual body image and identity. To consider this issue, we will read and discuss the work of British applied ethicist Heather Widdows, Perfect Me--Beauty as an Ethical Ideal (Princeton University Press: 2018).

５．学修の到達目標：身体美に関わる規範の倫理的問題を理解する。
哲学文献の読解に習熟する。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：To understand the ethical issues of beauty norms.
To become familiar with reading philosophical texts.

７．授業の内容・方法と進度予定：

Heather Widdows, Perfect Me--Beauty as an Ethical Ideal (Princeton University Press: 2018) の一部を読みます。授業形態としては、対面を原則として、オンラインでの授業参加を認める方向で考えています。

授業計画は以下の通りです。最初、ルッキズムについて解説、議論した後で（1 回～3 回授業)、この本の部分（おそらく、Chap. 7 と 8）を読みます（4 回～15 回授業)。

８．成績評価方法：

課題（60%)、レポート（40%)

９．教科書および参考書：

Heather Widdows, Perfect Me--Beauty as an Ethical Ideal (Princeton University Press: 2018)

１０．授業時間外学習：書籍を読み、関連事項を調べ、文章にまとめておいてください。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：